

もなく醫力をかり甚しきは神に祈ることも御座います。何等の迷信で御座いませうか、平素常に心の修養の助けとか何とかの爲めに神に祈るはよろしいが、病氣になつたからとて神に祈つたとして何で神様がおなほしなざりませう、それよりか、平素衛生に氣をつけて、出來得る限り自分で自分の身體を丈夫にする様にとめるやう、教育するのが肝要で御座います。私はよくお預りして居る中學時代の生徒にさへ自己の健康を増進する事をつとめずに唯弱い／＼とこぼして悪くなれば醫療にのみ托するの生徒を見て、切に幼時より子供に衛生思想を鼓吹する事が大事であると感するので御座います。

それで私は毎日温浴させる時は大きな兒は何でシャボンで洗へばよいのか垢すりをかけるとか聞きます時、時こそ來れと機をはづさす。

よく奇麗に皮膚を洗はないと、其面に無數の孔があつて、體内の汚ないものが分泌して居るのを止めますとか。或は肺臓がこゝでそれはこんな事をするとか、極簡單に子供の辨へ

らる、事丈話して聞かせます、かくして身體の大切な事、如何に賢い子供でも、其健康を書しては將來お國の爲になる様な人にはなれない事など、手をかへ品をかへて、悟る様にとめます。

私はよく六歳や七歳の幼兒に入湯させて矢鱈白粉をつけてやらる、親御を見る事があります、そんな事をして虚榮の根を植ゑ付ける、よりか衛生思想の一つも與へて心身の健全を圖る方が其の子將來の爲ではあるまいかと存じます、他事ながら談話につきてこゝに一言してをきます。

## マニラの話

### 小寺みさを

氣候 フイリツピン群島は熱帯の内にありますから何處へ行つても只々御暑いばかりで少しも寒さを感じるといふ事は御座いませぬ、私はマニラ

市に居りましたから其他のことは餘り存じませんが兎に角年中通じて御暑いので御座います、先づ一年中の氣候を大別してドライシーズンとレインシーズンとの二季に分ちます、六月から十一月までがつまり雨の多い時季で十二月から五月までが一番御暑い時季なのです、丁度日本と反對で日本の御寒い時が彼地では最も暑く又内地の土用時分が彼地では一番涼しいので御座います、私どもがマニラに着きましたのは丁度六月の中頃で御座いました但其暑さには随分驚きました何しろ船がマニラ港に入るや否やまるで温室に入れられたやうで上陸の仕度をする間に汗でびつしよりになつてしまひもうく暑くてく堪へられぬ程でしたマアこんなならば一所に來るのではなかつたのになど、つまらぬ事を考へた事もありました、後に聞きましたらマニラ港には其頃風といふものが少しも吹かないのだそうです道理で暑いわけでした先づ三井物産會社の社宅に招かれましたところが氷入のラムネだのソーダだの出して下さいましたか團扇を一つも出して下さいません、私どもは

暑くてく堪へられぬ程でしたのに三井の方々は平氣な顔をして汗一つ出していらつしやいません、私は不思議ですから伺ひましたら「ナニ此位ならば涼しい内ですよ此頃は雨が降りますから」などと、おつしやつて笑つて居らつて漸く奥から扇子を持つて來て下さいました位でした。ところが不思議な事に馴れるに従つてそんなに暑いとも思はなくなり上陸當時に無中で扇子を使つた事がおかしくなりました、扇子などを使へば使ふ程暑さを屬すのですもの、それを知りませんから初めはどなたでも扇子を手持つたきり、私なども此暑いのに何故皆様は團扇をお使ひにならなにかしら、と不思議に思つて居りました。それですから少し彼地に馴れますと外を通る人を見て居りました往來を扇子を使ひながら歩いていらつしやる方を見ますとア、あの方は此頃上陸なさつたのだなとわかるようになりました、私たちも初めは其内でしたもの、それで先づ皆様から氣候の御話を豫め教へて頂きました其當時はや雨季に入つて居て三四月よ

り餘程凌ぎよくなつたのだと聞いて驚きました、マアこれで凌ぎ易いのだとは、それでは三四月頃はどんな暑さかしらと心配致しました、其翌年になりまして餘程こちらの身體も暑さに馴れて來ましたせい初めに心配した程でもありませんでした。雨季と申しても日本の入梅のようにジメ／＼の毎日降りつゞくのでは御座いせん、朝から好い天氣だと思つて居りますと俄に黒雲が起つて參りました。オヤ空模様が変わつて來たと思ふと同時に、ツツと大變な音をさせて非常な大粒な雨が降つて參ります、それこそ篠つく計りの大雨ともまをしませうか實に瀧のような雨が降つて參ります、其雨が太抵長くて二時間位でせうか忽ちに晴れてまだ、雨だれの音を聞いて居りますのに早やカン／＼と容赦なく照り付けます、それですから往來の人は雨が降り出しますと家の軒下に入つて雨止みをして居ります、それも其は一寸待つて居さへすれば直ぐに止みますから傘などさして歩く人などは一人も見られません、こんな鹽梅に日に幾

度となく降りますのです、ところが驚く事には雷鳴が非常で、私など初めは恐はくても一人では居られませんでした、大きな家がビリ／＼とゆれるようでも、それ故よく處々に落雷します一度、私どもの家の軒に電話の柱がありましたら其柱に落雷致しまして下に居りましたボーイと馭者とはそこに倒れてしまひましたが間もなく氣が付いたさうでした、私共は其時隣家に參つて居りました。以上が餘りひとひ音が致しますから歸つて見ましたら以上の始末で驚きました。暴風雨の時は日本より餘程早く七月の大方半頃に當ります、随分ひどく大抵の大木は倒され屋根ははがれ貧乏人の家などは實に無慘なものです、其暴れの時が少し朝夕涼しいと思はれます。それでフランネルを着ましても朝夕だけで日中は矢張り單衣か麻の着物に更へなくては居られません、嵐といつては此様に年に一度ありますだけで其他には大雨は降つても別に恐れる事は御座いせん。八、九、十、十一と丁度六月から幾月の間は此様によく雨が降りますがもう十二月に入りましてズツと暑う

なりまして五月まではめつたに降雨を見られませんで只照り付けられます、お正月にはいつも打よつて笑ひます、皆汗を拭き、新年の賀をのべかるた會などにも紹の着物などで打寄るのですから、日本ならば寒くて、大變に重着をするのにこゝでは紹やかたびらでも尙暑いとばかりも違ふものかと、其對照が餘りおかしいので笑ひます、全くあちらで綿入れなど見るもいやな心地が致します、それとも其はづ手に觸れる物一つとして冷めたいと感ずるものは御座いませぬ、水道の水はお湯も同然、家の中のテーブルでも椅子でも戸でも何でも手でさわつて見て冷めたいと感ずる物は氷をのぞく他何も御座いませぬ、日中に外を見ますと熱の反對で顔をそむける程ですから歩いて庭にも出ませうものならば靴の底を通して足が焼き付けられるよう御座います、馬車に乗つて居りましても馬車の足を付ける處が眞鍮で張つてありますのが反射してとてもマバユクで居られません、食事を致して居りますのに電氣扇をかけて置きましてもそれ程暑いと思ひませんで背から胸にか

けてダク、と大汗が流れまして食事後早速着更へるといふ始末で御座います、とても日本に居りましては想像も及ばぬ位で御座います、私などもさぞ暑いでせうとは思ひましたが、出立の前に天長節の夜會にもお正月の夜會にも婦人は紹を召すといふ事を聞きそれ、仕度は致しましたが内々疑つて居りました、ところがどうして、聞いたより以上の御暑さでした、と申しましたらそんな暑い處によう生きて居られると思召すでせうが、こは熱帯地の常で始終冷めたいそれは、涼しいよい風が常に吹いて居りまして其御蔭で別に焼死にも致しませんでした、ハワイもそうだと伺ひました、がとにかくマニラは其涼風の爲めにそれ、事務を取る事も出来、分に従つて働く事が出来ます、それに極お暑いのは午前十時頃から午後は四時まで、五時になりますと、ソット日の影が出来、まして涼しくなります、そして夜は又實に好き氣候になりまして晝間どんなに、暑さに苦しむでも夜分涼しさには、終日の苦を忘れられます、それ故睡眠は十分に安々とれます、反へつて日本の土



用の内の方が夜分蒸し暑くて苦しむ事が度々あります。マニラには一度も蒸し暑くて困つた事は御座いませんでした、しかし最も暑氣の強いのは五月の月で其頃は皆避暑に出かけます、それはマニラより餘程北のアンテイボルといふ山の上に皆参ります。其アンテイボルの山の有様も一寸風變りでもおもしろう御座いますが餘り長くなりますから又項を改めて御話し致します。此様に暑いものですから正午から午後二時まではひるねの時間としてありましてこのオフェイスでも店でも二時まではビシ／＼と戸をしめて皆家に歸つてひるねを致します。其間には決して人を訪問致しません。又來る人も御座いません。外出致し度ても外に馬車一臺でも通りません。實に静なもので御座います。

私が初めてマニラへ参りました其當時はそれこそ見る物さく物皆珍らしく又不思議にも思はれました。此地に馴れるにつれて初めにおかしく思つた事も當前に見えそれから尙其おかしかつたのが反つて上品に見えて参りました。其内から

時徴を見出すようになりました。次に其二三をお話し致します。

あちらは熱帶國ですから年中お暑いはかりで私どもは一日の内に少なくとも二三度は肌着をとりかへなくては居られません。それが、大した仕事を致さないでも自然に汗ばんでとも朝着た着物を一日中着通すといふ事は出来ませんでした。位です。からあちらの土人はどうかと思ひました。どんな貧乏人でも決して汗くさい臭をさせません。何時でも眞白な肌着を着て居ります、それが上流から極下等な仕事をする人迄でも必ず奇麗に洗濯してちやんと火のしをかけた物を下に着て居ります。すには感心致しました、聞いて見ましたら少しでもよごれた下着を付けて居るのは非常な耻辱なのだ。さうです、それが自然洗濯が上手で御座います。いつか、私が洗濯屋が参るのが間に合ひません。心安くして居るあちらの婦人に話しました。らそんなら私が洗つて來て上げると申す。私ども考へました折角親切に洗つてやるといふものを断るのもわるいしと云つてどんな洗ひようをされ

るか心配でしたけれども餘り云つてくれまから  
 とにかく洗い直しにやるまでもと其つもりで頼む  
 で見ましたら其翌々日もやんと立派に洗濯して持  
 つて来てくれましたのには驚きました、洗濯屋の  
 洗つたのと少しも違ひませんのですものほんとに  
 感心致しました、あちらでは裁縫の出来ない婦人  
 はあつても洗濯の出来ない婦人はないそうですそ  
 してどんな物でも洗つたら必ず火のしを掛けて  
 用ひて居ります小さなハンケチでも火のしを掛け  
 ず持つのは何より耻として居ります、私ども日  
 本人には此清潔法はつくづくいと思ひます、と  
 ころがあちらの人はお湯に入りませぬお湯は熱の  
 ある病人があびるものとして居りまして平素は水  
 をあびます、其あび方が一種特別なのです婦人は  
 先づ髪をときサヤといつてスカーツのようなもの  
 (いづれ衣服の御話な後日致しますが)を脇の下  
 から乳の上のところでしたつかりと着ましてつま  
 肩から腕だけ出して乳以下全體を包むでそして頭  
 から水をあびます、先づ頭はゴッといふ木の皮を  
 打碎いたものを水の中でよく揉み其出た汁で洗ひ

ます私も土人から教はつて洗つて見ましたが初  
 めは中々よこれが落ませんでしたか二三度洗ふ内  
 に馴れてよく落ちるようになりました、以上のよ  
 うにして髪を洗ひましたら額際へつくねて置いて  
 今度は肩から水をかけます、其かけますにはタポ  
 ツといひましてコ、ナツツの實の皮をくりぬいて  
 丁度大きなお碗のようにしてそれでザザ〜とか  
 けるのです見て居ますとまるで子供が水いたづら  
 をして遊ぶて居るようなものですがそれで彼等に  
 は十分なのです身體を洗ふのに決して手拭を用ひ  
 ませぬ只手の平で腕やそこいらを擦つて居ります  
 つまり着物を着たまゝ水をあびて居るのですなせ  
 ならば彼等は乳を人に見られるのを非常に恥とし  
 て居りますからなのです、  
 これは西班牙政府時代からの習慣でつまり西班牙  
 の習慣に馴れたものでせうがとにかく暑いところ  
 ですのに胸を開いて冷を取るといふことを致しま  
 せんのに感心致しました、反へて日本の裏店な  
 どに参りますと随分如何はしい體裁を見る事があ  
 りますがこれなどは南洋の土人より遙に劣つて居

るかと思はれます、此冷水浴はマニラ市中ではそれ／＼家の内の水道の水をあびますがマニラの市から少し離れますと川に入つてあびで居ります朝九時頃が夕方四時過ぐる頃少し田舎へ参りますと老若男女打寄つて前に申たような姿で水をあびて居ります不思議な事には極暑い日中に水をあびると病氣すると申して決して致しません、又水をあびますのに何故頭からあびるといふのに頭を洗つてそれからからだを洗はないと眼がわるくなると云ひ傳へて居ります、それだとひ毎日でも必らず頭を洗つてからあびて居ります、其爲でもありませんが不思議にもあちらの婦人で眼鏡を用ひて居るものは一人も見受けませんでした、最も日本のように四季の移り變りといふ事がなし年中夏の仕度で間に合ふのですから自然裁縫も日本ほど忙してありませんからでありませうが、とにかく一般に眼は丈夫のようでした、それから家を非常に奇麗に掃除するのは實に感心だと思ひます、家の建方に三種ありまして石造と木造と竹造との區別はありますが何にしる床をよ

く拭き込むのであるのは驚きました靴でうつかり歩きますに滑べてあぶない位です、例へどんなあばら屋でも床だけは實にびか／＼と光つて居ります何でそんなに拭くかといひますとバナ、の葉でよく擦るです、私も教はつて致して見ましたが多くすべ／＼して美事な色になります其拭きますのに手で致しませんで一束にしてある葉を一つづ、兩足で踏むで滑つて歩きます幾度も座敷の内を往つたり來たりして居る内に自然に奇麗になるのです此の掃除の仕方は一寸聞きますと随分亂暴なやうですが暑いところですから座つて手で拭ひて居てはそれこそ暑くて仕方がありませんから自然とかういふ仕方がなつたものでせう床は毎日朝夕二回右のように拭きますが窓の敷居が又特別市廣でそれが折々テールを代用致しますと申して變に御思ひでせうがつまり窓のそばに椅子を出して外をながめ庭をながめながら人と話を致します時にテールブルの代用を致します、それ故其敷居は非常に立派に拭いてあります木も随分堅いのを用ひてありますがそれを毎土曜日灰のアクで木の

葉を以て擦りよく洗ひます其木の葉が非常にザラ  
 くで丁度日本のトクサのようですからそれでア  
 クを付けて洗ひますから眞白になつて實に心持ち  
 よく奇麗にしてありますまだ中々お話し致します  
 と長くなりますから今日はこれだけにして又後日  
 に申上ませう。

### 兒童の經驗

中島 泰藏氏談

少年期の終に至りても兒童の經驗は意外に狭いも  
 ののである。此事は小學校へ初めて入學する兒童の  
 精神内容を調べて見れば分る。或人が米國のホス  
 トンの小學校へ今や入學せむとする者に付きて調  
 べた所に依りますと、手首や蹠の名を知り居し者  
 は半數に充たず、彼等が心臓、肺臓又は肋骨を有  
 することを知りし者は五分の一に過ぎず左右の手  
 を區別して知らざりし者は五分の一あり。七分の  
 一は星を知らず、十四五分の一は月を知らなかつ  
 た。約十分の九は草類の動物より取るものなるこ  
 とを知らず、綿布の大本は綿なることを知らなかつ

つた。十分の八は麥粉や煉瓦が何にて作られしか  
 を知らず、十分の七は此の地球の形を知らず、羊  
 毛製の物の材料を知らなかつた。木製物の樹木よ  
 り造られる物なることを知らざりし者半數あ  
 り。牛乳の牛の乳なることを知らざりし者五分の  
 一あつた。四以上の數を知りし者は極めて少數で  
 あつた加之總て是等に付き且又彼等が知る所の  
 者も斷片的無系統的である。(教育學術界)

